学校番号	414

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	(学)美術演習α	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現形式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更に広がったり深まったりします。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】
感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
【学びに向かう力、人間性等】
美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	人物クロッキー	【絵画】 ・一人のモデルを短時間で仕上げる ・骨格を意識して人を描く ・立体的に形を捉え、平面的にならないようにする	b:一人のモデルが画面に入りきるように考えながら制作できる。 a:骨格を意識し、モデルが誰であるのかわかるように描ける平面的にならずに、立体的に人物を捉えることができる。	作品評価	作品評価	
	ファッションデザイン	【デザイン】 ・ファッションの中にある「コンセプト」を意識して作品の構想を練る ・何度も練習し、より良いデザイン画を制作する	a:普段生徒が目にする「服」がどういった考えで作られているのかを考え、自分の作品に反映させることができる。 b:デザインの中にコンセプトをしっかりと持つことができる。 c:一枚で満足せずに様々な表現方法を探っていくことができる。	作品評価	作品評価	作品評価
2学期	ティッシュボックス	【デザイン】 ・用途を考えつつ、面白い空間を作る。 ・下図とコンセプトが実際に制作した作品とあっているか確認する。 ・他者の作品を見てコンセプトを感じ取る	a:粘土の技法に関心を持ち、表現の可能性を探求できる。 b:テーマに合致した構成を意識することができる。 c:製作中の作品がよりよく見えるように常に客観視をし続けることができる。	・完成作品	・作品制作の様子	・作品制作の様子
3学期	はんこ彫刻	【彫刻】 ・ハンコのデザインを考える。ハンコのデザインから連想する持ち手のデザインを考える。正面、横、上など様々な方向から見ても成り立つ造形を考える ・実際に削りだしていきながら形のバランスを整えていく ・モチーフの表情を意識して形を仕上げていく	a:立体造形に関心を持ち、意欲的に立体造形のエスキースを作っていくことができる。 b:削りだしながら形を整え、無理のない造形を作り出すことができる。 c:ディティールにこだわり、納得することができるまで仕上げていくことができる。	・完成作品	・作品制作の様子	・作品制作の様子

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度